

平成 28 年度大学院理学専攻（修士課程）修了予定者アンケート

以下、平成 29 年 1 月から 2 月にかけて理学専攻修了予定者に対して実施した、大学院での学習環境全般に関するアンケート結果を示す。平成 28 年度修了予定者は 50 名で、そのうち 50 名から回答が得られた。

理学部大学点検評価委員会

I. 分析と今後の教育へのフィードバック

【アンケート結果概要】

まず、大学院での研究や生活で満足できたものとして「研究室での研究やゼミ」という回答が 70.0% (昨年度 68%) と最も高く、次いで「先生との出会い」が 64.0% (昨年度 55%) であった。一方で「修士論文」が 34.0% (昨年度 51%) であり、昨年度よりも数値が大幅に下がった。また、「友人との出会い」と回答した人が 44% (昨年度 49%)、「授業」と回答した人が 28.0% (昨年度 28%) となり、これらは昨年とほぼ同じであった。

逆に満足できなかったものとしては「課外活動」が 24.0% (昨年度 19%)、「修士論文」が 30.0% (昨年度 19%) であった。やはり修士論文が満足できなかったと感じる学生が増えている。一昨年度は 11% であったので「修士論文に満足できなかった」と答えた学生の数値が年々上がっている。

また「授業」については 2.0% (昨年度 17%) となっており昨年の数値よりかなり下がったが、大学院における授業に関する質問で「満足できる」または「満足できる授業が多かった」と回答した学生は 80.0% (昨年度 95%) であり、昨年度より数値が下がっている。

教育研究施設（学習環境）について、肯定的意見は 80.0% (昨年度 95%) であり、昨年度より数値が下がっている。

就職支援活動については、肯定的意見は全体の 62.0% (昨年度 60%) であり、昨年度並みであった。ここの自由記述で「大学院生が少ないため、TA 等が負担になっていた」というものがあつた。本大学大学院進学者数の減少により就職活動にも少なからず影響が出ることが読み取れる。

またボランティア活動の参加についてきいたところ、92.0% (昨年度 89%) の学生が活動したことがないと答えており、昨年度に比べ数値が若干あがった。やはり研究に専念する必要からボランティア活動に割く時間がないと思われる。その一方でボランティア活動をした学生にその満足度を聞いたところ全員が「満足」、もしくは「ほぼ満足」と答えており、昨年度と同様の結果が得られた。実際に活動した学生にとっての満足度はやはり高いことがわかる。

一昨年度からアンケートの質問項目に、「総合的に考えて、理学専攻（修士課程）で学んでよかったと思いますか。」という質問項目を追加したが、これについては「とてもよかった」「おおむねよかった」という肯定的意見が 94.0% (昨年度 99%) であった。昨年度よりは若干数値は下がったが、修了予定者にとって理学専攻で学んだことに対する満足度は非常に高いことがうかがえる。

最後に教育全般に関する自由意見を聞いてみたところ、いくつか意見が出た。今回は特に「研究環境が整っていない」ことや「財政難で研究活動に支障をきたしている」という意見が目立った。

【総括】

大学院で満足できたものとして「修士論文」と答えた方が、51%から 34.0%に減少したが、この原因については現時点ではわからない。しかし、近年の大学院進学率の低下と何らかの関連性があるかもしれない。今後もこの数値については注意してみたい。また、就職支援活動の結果を見ると、就職活動の支援について肯定的意見が昨年並みで少々低いと感じる。やはり大学院進学希望者数を増やすためには、出口をしっかりとすることが重要である。また一方で大学院進学者数の減少により、1人当たりのTA等の負担が増えることで就職活動等に影響が出る可能性があることも今回のアンケートから読み取れる。さらに今回のアンケートでも指摘があったように「さまざまな要因による研究活動への支障」が本大学大学院への進学者数に影響を及ぼすことも懸念される。今回あがった問題点は今後の大学院改組に向けて検討すべき重要な課題の一つと考えられる。今回の結果や意見を参考に今後も各分野で必要と思われる対応を検討したい。

II. 集計結果

1. あなたの所属する分野を下記より選んでください。

- A. 数学 B. 物理科学 C. 生物科学
D. 地球科学 E. 情報科学 F. 応用化学
G. 海洋生命・分子工学 H. 災害科学
I. 連携分野（植物分類・地理学） J. 連携分野（海底資源科学）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	計
修了者数	9	3	7	5	11	4	7	4	0	0	50
回収件数	9	3	4	6	11	6	7	3	0	1	50
回収率(%)	100	100	57.1	120	100	150	100	75	0	—	注*

(注*) 平成 26 年度から新たに準専攻の制度が開始された。平成 28 年度は準専攻の学生が修了する 2 回目の年度であったが、今回のアンケートはそれを考慮したものではなかった。平成 28 年度修了生には 7 名の海洋鉱物資源科学準専攻の学生がいた。制度上、これら 7 名の準専攻履修の学生も主専攻として理学専攻に属しており、その学生がこのアンケートに回答する場合、上記の選択肢では答えにくいものとなっていた。今回応用化学分野で 100%を超えたり、修了者のいない連携分野の海底資源科学で 1 名となったりしているのはおそらく海洋鉱物資源科学準専攻の学生ではないかと推測される。

2. 大学院での研究や生活で満足できたものを下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 修士論文 B. 授業 C. 研究室での研究やゼミ
D. 先生との出会い E. 友人との出会い F. 課外活動
G. その他 ()

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学	2	2	7	6	5	1	0	0
物理科学	1	1	1	1	0	1	0	0
生物科学	2	1	1	2	1	2	0	0

	A	B	C	D	無回答
数学	2	6	1	0	0
物理科学	1	1	1	0	0
生物科学	3	1	0	0	0
地球科学	0	2	3	0	1
情報科学	4	6	1	0	0
応用化学	1	3	1	0	1
海洋生命・分子工学	2	4	1	0	0
災害科学	0	3	0	0	0
連携分野(植物分類・地理学)	0	0	0	0	0
連携分野(海底資源科学)	0	1	0	0	0
合計	13	27	8	0	2
合計(%)	26.0	54.0	16.0	0.0	4.0

○情報科学

・Java、回路設計など実際にプログラミングを書いたり、ものを作ったりする授業が楽しかった。しかし、〇〇先生の授業はそれほど実用性が無いと思いますので、要らないような気がします。

・かなり専門的な授業を受けました。

○応用化学

・学部卒の時点で未熟であった知識を身につけることができた。

5. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学	2	6	1	0	0
物理科学	2	0	1	0	0
生物科学	2	2	0	0	0
地球科学	3	2	1	0	0
情報科学	5	5	1	0	0
応用化学	0	2	3	1	0
海洋生命・分子工学	4	2	1	0	0
災害科学	0	2	0	1	0
連携分野(植物分類・地理学)	0	0	0	0	0
連携分野(海底資源科学)	0	1	0	0	0

合計	18	22	8	2	0
合計(%)	36.0	44.0	16.0	4.0	0.0

6. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学	3	4	2	0	0
物理科学	1	0	1	1	0
生物科学	2	1	0	0	1
地球科学	1	2	1	2	0
情報科学	3	3	1	4	0
応用化学	1	2	3	0	0
海洋生命・分子工学	3	2	0	2	0
災害科学	0	2	1	0	0
連携分野(植物分類・地理学)	0	0	0	0	0
連携分野(海底資源科学)	0	1	0	0	0
合計	14	17	9	9	1
合計(%)	28.0	34.0	18.0	18.0	2.0

○生物科学

- ・利用していない。
- ・就活をしていないのですが、とても丁寧なガイダンスでした。

○地球科学

- ・メールを送らないでほしい。

○情報科学

- ・利用していない。
- ・就活支援室の模擬面接がすごくよいと思います。〇〇さんと何回も相談しました。また、係の方も優しかった。
- ・いろいろな企業に対する推薦が多いこと。

○応用化学

- ・大学院生が少ないため、TA 等が負担になっていたと思う。

○災害科学

- ・合同説明会に日程分のバスが無かったりと、交通系のサポートが弱かった（2 日間あるのに 1 日分しかバスがない）。セカンドキャンパスのサービスはよかった。東海・関東エリア

の交通系サポートがあると良かった。

7. 大学院在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある

B. ない

	A	B	無回答
数学	1	8	0
物理科学	0	3	0
生物科学	0	4	0
地球科学	0	6	0
情報科学	1	10	0
応用化学	0	6	0
海洋生命・分子工学	1	6	0
災害科学	1	2	0
連携分野(植物分類・地理学)	0	0	0
連携分野(海底資源科学)	0	1	0
合計	4	46	0
合計(%)	8.0	92.0	0.0

8. 7で「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた

B. ほぼ満足できた

C. あまり満足できなかった

D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学	1	0	0	0	0
物理科学	0	0	0	0	0
生物科学	0	0	0	0	0
地球科学	0	0	0	0	0
情報科学	0	1	0	0	0
応用化学	0	0	0	0	0
海洋生命・分子工学	1	0	0	0	0
災害科学	0	1	0	0	0
連携分野(植物分類・地理学)	0	0	0	0	0
連携分野(海底資源科学)	0	0	0	0	0
合計	2	2	0	0	0
合計(%)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

○情報科学

・社会の人と交流すると、もっと成長できると思います。

9. 総合的に考えて、理学専攻（修士課程）で学んでよかったと思いますか。

- A. とてもよかったと思う B. おおむねよかったと思う
C. あまりよかったと思わない D. よかったと思わない

	A	B	C	D	無回答
数学	4	4	1	0	0
物理科学	2	1	0	0	0
生物科学	2	2	0	0	0
地球科学	3	3	0	0	0
情報科学	7	4	0	0	0
応用化学	2	3	1	0	0
海洋生命・分子工学	2	4	1	0	0
災害科学	3	0	0	0	0
連携分野(植物分類・地理学)	0	0	0	0	0
連携分野(海底資源科学)	0	1	0	0	0
合計	25	22	3	0	0
合計(%)	50.0	44.0	6.0	0.0	0.0

10. 理学専攻（修士課程）の教育研究全般について、意見があれば書いてください。

○情報科学

- ・ポスター発表にしてください。（時間足りない）
- ・インターンの機会が少ないと思います。特に、院 1 年生のときにインターンをしなかったことに後悔している。もし、学校で企業との連携研究があれば、企業との繋がりを活用できると思います。
- ・大学院の授業は少ないことです。他には、自分の研究をしながら色々な体験できるので、かなり得たものが多いです。

○応用化学

- ・大学院に入学したと同時に SciFinder が使えなくなったため、研究がしづらい環境となり論文を探すのに苦労した。他大学では使えるのが当たり前であるという話をよく聞いた。
- ・測定機器（主に NMR）の不調を現状維持ではなく、もう少しちゃんと直して頂ければ良かったです。研究が進みません。
- ・研究するにあたり、地方大学の財政難であるために、研究活動に障害が生じていたと思う。しかし、その中でどのように研究を進めていくのかということを学べたと考えれば、良い学びの場だったと感じた。
- ・研究環境が全く整っていない。特に応用科学にとっての生命線といえる「SciFinder」が使えなくなったことは、もはや致命傷である。修士課程の 2 年間よりも、SciFinder が使っていた学部 4 年生の時の 1 年間のほうが満足のいく研究活動ができていた。このような状

況のため、後輩たちへの進路相談でも、「高知大学に残っても満足な研究はできない。大学院へ進学するなら他大学の大学院へ進むべきだ。残っても良いことはないぞ」と言わざるを得なくなっている。ぜひ、先輩が自信を持って「高知大学の大学院へおいで」と勧められる研究環境をつくっていただきたい。“研究ができなかった被害者”は私達だけで充分です。